

「汝、星のごとく」 風良ゆうさん

ヒット作の裏側語る

山科で講演

4年の木瀬日瑠里さん(22)は「作家の考えを直接聞けるのは新鮮だった」と舌を弾ませた。(湯沢宏志)



ヒット作「汝、星のごとく」の制作過程を振り返る風良さん(左)と河北さん
—京都市山科区・京都橘大

京都市在住の作家風良ゆうさんの講演会が京都市山科区の京都橘大であった。担当編集者河北壮平さんと「星の裏側」と題者とともに、本屋大賞に輝いた著書「汝、星のごとく」の制作過程や小説家の仕事について語った。

風良さんは講談社の担当編集者河北壮平さんと「星の裏側」と題して講演。風良さんは「男女の恋愛ものを書く」という中で、河北さんの過去の恋愛経験が話のベースになった」と同作のきっかけを紹介。下書きの時点で5万字におよび、クライマックスのシーンまで筋書きが決まっていたことを明かした。

同作が本屋大賞に選ばれヒットしたことについて「小説が売れなくなっている中、若い人にも届き、たくさん本が売れたことは業界にとってもよかった」と振り返った。

講演会は、6日であり、学生や地域住民ら約300人が参加した。文学部4年の塩田弥菜乃さん(22)は「授業で作品の舞台に訪れることがあるので参考になる」と話し、同部